

令和元年度 徳島県立鴨島支援学校「学力向上実行プラン」

徳島県立鴨島支援学校長 久田 真由美

1 学力向上検討委員会構成

学 力 上 向 上 検 討 委 員		
	職名・校務等担当名	氏名
管理職	校長 教頭	久田 真由美 小谷 慎一
学力向上推進員	教務課長	中 史治
委員	小学部長 中・高等部長 小学部教務主任 中・高等部教務主任	新居 由紀子 近藤 美和子 細川 さな恵 土井 哲士

2 学力・学習状況における現状分析, 目標等

【3つの視点】

- (1)基礎的・基本的な知識・技能の習得
- (2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成
- (3)主体的に学習に取り組む態度の育成

(小 学 部) 幼 児 児 童 生 徒 の 状 況		
よ さ	児童によっては、初めての活動や慣れない場所での学習等に対して不安を感じたり、課題に戸惑いを見せたりすることもあるが、個々の実態に応じて、視覚的な見通しを持てるようにしたり、興味のあることや得意なこと、好きなことを活動に取り入れたりすることで、個々の力を発揮することができる。	課 題
	児童数が少なく、個々の実態の差も大きいので、学習グループを形成することが難しい現状であり、子ども同士で対話的に学び合う場や機会が限定されている。	
具体的目標(目指す子どもの姿)	成果指標	達成状況
・さまざまな学習活動を通して、「わかった・楽しい・できた」を実感し、意欲的に学び、持てる力を伸ばすことができる。	・目標に対する達成状況について、教員にアンケートをとり、「達成できた」、「どちらかという達成できた」の評価を合わせて7割以上で達成とする。	
		----- 評価

具体的方策(教員の取組)	取組指標	取組状況
<p>・「教材教具」と「授業実践」のグループに分かれて、児童一人一人の実態に応じた教材教具作りや授業作りについて研修し、「わかった・たのしい・できた」を実感し、意欲的に学び、持てる力を伸ばすことができる授業を実施する。</p>	<p>・児童一人一人の実態に応じた教材教具と授業実践についての研修を、グループで年3回以上実施する。</p>	
* 中間期の見直し		
達成状況を踏まえた改善事項		

(中・高等部) 幼児児童生徒の状況		
よさ	<p>様々な活動に置いて、個々に役割を果たし、力を発揮することができ、自発的な活動が増えた。また、集会や行事等に向けての話し合いでは、自分の意見を出す、他者の意見を聞くことができるようになってきた。</p>	<p>課題</p> <p>広い視野を持ったり、発信力を高めるために、校外の人(地域の人や交流校の生徒等)との関わりの中で、経験を積むことが重要である。その前段階として、小集団ではあるが、さらに様々な場面で役割を果たし、自分の力を発揮することで、自信につなげていくことも引き続き課題である。</p>
具体的目標(目指す子どもの姿)	成果指標	達成状況
<p>・卒業後に向けて、自ら発信し、活動する力を向上させることができる。</p>	<p>・目標に対する達成状況について、教員にアンケートをとり、「達成できた」、「どちらかという達成できた」の評価を合わせて7割以上で達成とする。</p>	
		----- 評価
具体的方策(教員の取組)	取組指標	取組状況
<p>・生徒が自主的に話し合い等をする時間を確保する。</p> <p>・内容等についての課題が見いだせるよう、生徒の実態に応じて支援方法を考え実施する。</p> <p>・年度当初に、学習グループや中・高等部別グループ等において学習できるよう、内容等を話し合い、計画を立て実施する。</p>	<p>・学部集会の運営を生徒が毎回行う。</p> <p>・学部集会の課題を次時へ生かせるよう、反省会を実施する。</p> <p>・総合的な学習の時間において、生徒の実態に応じたグループ学習を年間5回以上実施する。</p>	
* 中間期の見直し		
達成状況を踏まえた改善事項		